

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 8 日作成)

小委員会名	衝撃作用連成問題小委員会	主 査 名：濱本卓司 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営意委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：大崎 純
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 構造物に作用する荷重は、自重や固定荷重等以外は衝撃的に作用することが多く、それが一定時間の間、持続的に構造物に働く。このような荷重は、衝撃・衝突、爆発、津波、地震、強風などによってもたらされるが、3.11 の広範囲な被害でも分るように、建物や船舶、備蓄タンク等に甚大な被害が及んでいる。当小委員会では、このような衝撃的に作用する荷重特性の解明、構造物（住宅・大空間構造物・シェル構造物・タンク・船舶等）に作用したときの構造物の挙動解明および構造物の被害調査等を行い、構造物および都市機能への防災・減災対策への提言を行う事を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2012 年度：東北地方太平洋沖地震（2011 年）の被害を始めとして、現在までの様々な災害に対する被害調査を行い、被害と被害を及ぼした荷重の相関関係を調べる。衝撃作用荷重について調査・情報収集を行う。 ・ 2013 年度：前年度に引き続き被害調査を行うとともに、被害と衝撃作用荷重の関係を整理する。衝撃作用荷重について調査・情報収集を行う。 ・ 2014 年度：衝撃作用荷重の仕組みおよび構造物の被害・挙動予測を確立するために、実験と数値計算の立場から調査・情報収集を行う。 ・ 2015 年度：一連の調査・情報収集をまとめ、シンポジウムの開催または成果物の刊行を行う。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：濱本卓司（東京都市大学） 幹事：遠藤龍司（職業能力開発総合大学校）、近藤典夫（日本大学） 委員：大嶋昌巳（千代田アドバンスト・ソリューションズ）、高野真一郎（大林組）、登坂宣好（東京電機大学）、西村敏雄（日本大学名誉教授）、福住忠裕（元神戸大学）、松井徹哉（名城大学）、皆川洋一（鹿児島大学）、山田貴博（横浜国立大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 過去の衝撃荷重の調査を中心に行った。 2. 現在タンクの爆発について調査中である。 3. 衝撃荷重による破壊状況の評価がたりず、次年度の課題である。
委員会活動の問題点・課題	衝撃・連成に関するテーマは広く、現在の委員だけではカバーしきれないことが明確になり、新委員の公募に当たり専門分野を検討している。